

第3回区政改革懇談会・議事要旨

日時 第3回 平成20年3月18日(火)、19:00~21:00

会場 サンパール荒川 高砂・羽衣

議事要旨

1. 座長あいさつ・事務連絡

○座長によるあいさつと事務連絡

- ・ 本日は、荒川区の地域コミュニティについての現状認識や懇談会の進め方などを議論したい。
- ・ 前回配布したアンケート結果において、委員の意見が分かれたこともあり、本日は三つのグループに分かれ、地域総合計画研究所の方に進行役をお願いして、グループ討議を行いたい。

2. アンケート結果の報告

- ・ 事務局から、「第2回区政改革懇談会アンケート」集計結果の報告を行った。

3. グループ討議

【グループ討議結果のまとめ】別紙参照

4. グループ討議の結果発表

- ・ 地域総合計画研究所の進行役から、各グループ討議の結果発表を行った。
- ##### ○委員による追加発表
- ・ コミュニティの充実のためには共通理解が必要だが、世代間のギャップ、子育て現場での考え方のギャップがあり、共通理解を作ることがとても難しい。
 - ・ 地域別や課題別に具体的に討議して絞り込まなければ、本当の意味での結論が得られないのではないかと。
 - ・ 懇談会の進め方として、あまりテーマを広げすぎず、具体的に絞って議論することが重要だと思う。
 - ・ 区役所の職員は周りに立っているだけでなく、グループに入って議論を聞いてほしい。
- ##### ○担当課長によるコメント
- ・ 職員が皆様の議論に入ると、既存の区の施策に関することが中心になってしまい、区民からの視点で考えた施策についての議論が進まず、今回の懇談会の目的に合わないと考えている。しかし、懇談会において必要があれば、職員が説明に入るようにする。

5. 次回の日程について

○座長によるあいさつ

- ・ 今後の進め方については事務局と検討して提案をさせていただきたい。
- ・ 日程は、4月下旬以降になる予定である。

第3回 区政改革懇談会 グループ討議の結果まとめ

平成20年3月18日(火)午後7時～9時 @サンパール荒川 高砂・羽衣

<テーマ>

- ① 荒川区の地域コミュニティの現状や課題について
- ② 懇談会の進め方について
- ③ 懇談会のねらい等について

その他

- ※ 地域名は、地域を特定して出された意見について表記した。
- ※ 地域を特定しない一般的な課題等の意見については、表記なしとした。

<第1グループ>

- ①荒川区の地域コミュニティの現状や課題について

●荒川区の特徴

- ・ 荒川区は高齢者が頑張っている。高齢者の人材活用をしないのはもったいないことである。

●防犯

【路地裏の防犯】日暮里

- ・ 地域防犯として、路地裏での犯罪防止にいかに取り組むかが課題だ。
- ・ 区内の密集地域での路地裏は、夜は暗がりが多く、軽微な犯罪が起きている。

【通学路での防犯】日暮里

- ・ 山手線の内側に住んでいるが、日暮里・舎人ライナーが開通して、人の流れが変わり、通学路での子どもへの防犯対策が心配である。

【気安く声を掛け合える関係づくり】

- ・ 町会ぐるみで話し合い、防犯活動に取り組んだ結果、気軽に声を掛け合える住民間のつながりが一番大事だとわかった。

●福祉

【マンションでの老人の孤独死】

- ・ マンションで、独居老人の孤独死がある。

【AED装置の設置場所】

- ・ A E D装置は使いやすい場所に設置して欲しい。

●子育て

【保育・教育現場と地域の連携】

- ・ 小学校の自由選択制はやめた方がよい。地域の教育力が大事であり、そのためには地域のつながりが元になる。
- ・ 小学校の自由選択制は、子どもが自分の地域の子か、他の地域の子かわからず、子どもに声を掛けづらい。子どものことを考えると、子どもの防犯からも子どもは地域の学校に行くのが良い。
- ・ 子育てにおける地域の共通意識が大切である。

【子どもへの虐待】南千住

- ・ 東京都のデータなどからみても、子どもへの虐待が潜在化している。南千住には子どもが多くいるので、潜在化している子どもへの虐待の発見と防止に努力することが大事である。

●災害時の避難

【災害時の避難】

- ・ 災害時にマンション住民はどう対応したらよいか、不安である。

【災害に備えたネットワーク形成】

- ・ 災害時の危機管理対策として、例えば、防災マップ、防災ネットワークを事前に作っておくことが重要だと思う。

●道路空間

【歩道の狭さや自転車問題】日暮里

- ・ 道路が整備されて便利になった面もあるが、自転車が安心して走れる道路がない。また、道路が広くなっても歩道が狭い。
- ・ 日暮里・舎人ライナーの開通によって駅周辺での自転車問題が心配である。

【道路工事】

- ・ ケーブルテレビ、光回線、地上デジタルテレビ等の増加に伴う道路工事が多く、地域毎にまとめて集中して工事が出来ないものかと思う。

●商店街活性化

【地域のコミュニティの場としての商店街】

- ・ 個人商店が少なく、会話をする機会も少ない。
- ・ 商店街の衰退は、地域のコミュニティにとって良くない。買物も人との会話のやり取りのなかで、コミュニティが生まれる。
- ・ 社交場としての商店が少なくなって、高齢者は家に閉じこもりがちになる人が増えた。スーパーマーケットはコミュニティの場だったのに、それも減ってきた。

【商店街の変貌】

- ・ 閉まったままの店が増える一方、フランチャイズの店が増えてきた。

【商店街問題に対する区の施策のあり方】

- ・ 商店街の衰退は、ある面では区民が選択した結果とも言える。近くに大手のドラッグストアが出来たら3軒の薬局が無くなった。
- ・ 商店街の問題について、区政で出来ることを探る議論する必要がある。

●環境問題

【ゴミの問題】尾久

- ・ 西尾久と東尾久で、地域によってゴミの集め方が異なっている。埋める場が無くなったからといってゴミを燃やしてしまうような方向でのゴミの収集は問題である。
- ・ ゴミの問題は地域で協力して対応出来ることが多いと思う。

【エネルギーの問題】

- ・ 荒川区は土地が安く、マンションも多く立地しているが、夜中のマンションの照明は明る過ぎる。センサーで明るさを調節するようにしたらよい。これは環境、エネルギー問題にもつながる課題である。

●区の情報提供

【支援が必要な人に役立つ広報】

- ・ 共働き家庭が子育てで支援に関する情報を共有できるようにして欲しい。
- ・ 広報紙は区民が本当に困った事や、旬の情報を載せるなど、編集に工夫が欲しい。

【情報の発信と情報の共有】

- ・ 区の情報はどう発信するか、情報を区民が共有できるかが課題である。

●町会

【町会役員の高齢化】

- ・ 町会の高齢化をどう打開するかが課題である。
- ・ これまでの荒川区のコミュニティは、主に商店街と町会とで形成してきたように思う。今、商店街も町会も役員は高齢化しているので、10年後にはどうなるのか、とても心配である。

【町会の閉鎖性】

- ・ 町会は行政からの声には頑張っているが、住民の声を聞いて活動することには弱い。年配の人が頑張っているのは確かに認めるが、町会の活動の姿が周りから見ると閉鎖的だという自覚がない。

【町会、マンション管理組合での新旧住民の関係】

- ・ 自治会やマンション管理組合の中で、新旧住民の関係がうまくいっていないケースがある。
- ・ 地域の中でマンション管理組合をどう位置付けるのかがはっきりしていない。

【町会に加入しない世帯の増加】

- ・ マンションに20年近く住んでいるが、町会、自治会には関わっていない。
- ・ マンションの中には自治会のコミュニティに参加していない人が多い。

●コミュニティ力向上のための考え方

【組織や立場の違う人との交流、支えあい】

- ・ 荒川区の住民は、それぞれの人、それぞれの組織がコミュニティ活動において熱心に頑張ってきたが、組織間、世代間の交流や連携が弱い。
- ・ 町会に入らない人、また町会の中では役員の成り手がいないなどの問題もある。住民それぞれ立場の違いがあるが、会合などにおいて立場の違いを無くすことが大切であるし、また立場の違う人同士が支えあうことが大事である。

【集まれる場】

- ・ 人口に比して、フリーのコミュニティスペースが少ない。何となく人が集まれるコミュニティの場が必要である。
- ・ 高齢者が気楽に集まったりする場所が無い。

【コミュニティに参加しやすい仕組みづくり】

- ・ 全区民がコミュニティに参加し易いための条件を作ることが大事である。
- ・ 区民の全員が10分でも参加出来る仕組みを作りたい。

②懇談会の進め方について

【地域のことについて】

- ・ 前回、前々回でも全区に渡る意見は少なかった。地域コミュニティを捉えるのに、荒川区と言っても各地域がまちまちなので、5つの地域に分けて意見をまとめたら良いと思う。
- ・ コミュニティをどう捉えるかははっきりしない。テーマ別、地域別の議論の進め方があると思うが、自分は地域別で議論するのが良いと思う。

- ・ 地域コミュニティといっても漠然としてしまうので、共通の課題としての町内会を核にすることを一歩進めて考えてみたい。
- ・ 町会、自治会の人と話し合うと良い。

【共通の具体的な話の議論を】

- ・ 何が問題か、その共通認識をもって、具体的な議論を進めることが大切である。

③懇談会のねらい等について

【提言】

- ・ 区政改革懇談会の設置要綱2条に区長に提言するとあるが、提言したことがどのように実現されるかが大事である。

<第2グループ>

①荒川区の地域コミュニティの現状や課題について

●荒川区の特徴

- ・ 自転車で動き回れるくらいコンパクトなまちである。
- ・ 困っている人に気軽に声をかけてくれる人が多い、温かいまちである。

●防犯

【深夜のコンビニについて】尾久

- ・ 深夜、コンビニに若者が集まり騒ぐので迷惑している。しかし、注意するのも怖く困っている。地域と若者の間でトラブルが起きないか心配だ。

【新住民について】

- ・ 急に空き地ができ、大きなマンションが建設されると、どんな人が住むことになるのか分からず不安になる。

●福祉

【一人暮らしの高齢者支援】町屋

- ・ 高齢者の孤独死を防ぎたい。一人で暮らすお年寄りの生活支援のために声掛けをしたい。そのためには、地域のネットワークを活かすことが重要だ。

●子育て

【子育て世代が集まれる施設】荒川

- ・ 子育て中の世代や子どもたちが集まれる場所が少ない。今ある施設は、会議室など充実しているが、子ども連れには利用しにくい。
- ・ 子育て中の親同士が集まり、交流できる場があると、子育てがしやすくなる。

【子育ての地域でのサポート】

- ・ 子育ての問題は、個人や家庭の問題だと考えられがちで、なかなか外から関わるのが難しい。例えば、幼児虐待の問題も、マンションでは気付いてあげることができない。
- ・ それぞれの家庭だけでなく、地域で子育てをサポートしていけるといい。

【保育・教育現場と地域の連携】

- ・ 小学校、ひろば館（学童クラブ）、保育園、幼稚園など、同じ地域の子どもたちが通っているのにそれぞれの交流、連携の場がない。
- ・ 保育園と幼稚園の連携がまだ十分ではない。
- ・ 学校の先生を見る親の視点が変わってきた。今までのように権威のある存在ではなくなってしまった。そのため、先生は多くのことを求められている一方で、学校が地域

に対して持つ力が低下している。

- ・ 学校自由選択制の影響で子どもが地域に根付かなくなっている。
- ・ 今後は、地域が学校や子どもを支えていくことが必要だ。

●災害時の避難

【災害時の避難】荒川・町屋

- ・ 道路が狭いので、災害時に避難できず大変なことになるのではないかと心配だ。
- ・ 障がい者の避難支援対策を行おうとしても、個人情報保護法が壁になり進まない。

●道路空間

【道の危険性】町屋・南千住

- ・ 荒川区は歩道が狭く、歩くのに危ないところが多くある。
- ・ 道が狭かったり、一方通行の道が多く自動車の利用に困る。

●商店街活性化

【スーパーマーケットと商店街の共存】

- ・ スーパーマーケットの影響で商店街がさびしくなっている。共存が課題だ。
- ・ 住宅街にほど近い小規模のスーパーマーケットでは、なじみの客の交流の場になっており、地域の拠点になる可能性もある。
- ・ 24時間営業のコンビニも、昔ながらの商店街も、どちらもなくなつては困る。便利なものを活かしながら、昔からのよいものをどうやって組み合わせ残していくかが課題だ。

●区民参画

【地域の問題】

- ・ 地域に問題が発生してもなかなか解決できない。たとえば、大規模マンションの建設が予定され、住民が反対しても事業者には勝てない。地域のことは住民が決めたい。そのためには行政はどんな支援をすべきなのか考えて欲しい。
- ・ コミュニティの課題に対してもっと区民参画を進めるべき。決定事項を伝えるのではなく、決定する前に区民の意見を聴くことが大切だ。
- ・ 日暮里・舎人ライナーの計画について、障がい者として区民参画した経験があり、とても手ごたえを得た。今後も推進してほしい。

【地域ごとに都市計画やまちづくり】

- ・ コミュニティを考える際に、ソフト面の支援だけでなく、ハード面も重要である。線路や道路によって商店街が分断され、商店街として成り立たなくなった例がある。
- ・ 地域に影響を与える都市計画やまちづくりを地域ごとに考えたい。

●区の情報提供

【区政情報】

- ・ 区政情報は区報と町会ルート（回覧板）が主だが、それでは不十分である。もっと効果的な方法を考えるべき。
- ・ 新聞を取らない家庭もあるし、回覧板をじっくり読み込む人も少ない。

●町会

【町会役員の高齢化】

- ・ 地域全体が高齢化しており、町会等の活動が活発化せず、地域力が弱くなっている。
- ・ 町会役員の成り手がいない。若い人がやりたがらない。
- ・ 南千住の本祭り（役員が行う）の担い手がいない。

【高齢者と若い世代の関係】

- ・ 町会は、若い世代の力を取り込む術を持っていない。
- ・ 若いファミリー世代は地域にとっても関心を持っているにもかかわらず、地域に入り込めない様子だ。
- ・ 若い世代がゴミ捨て場の掃除に参加しようとして集合時間に行っても、すでにお年寄りが掃除を終えていて参加できない。若手に分担してくれない。
- ・ お年寄りにとっては、町会の仕事や集まりが生きがいになっており、それを若い世代に譲るのは難しいのだろう。

【町会と若い世代】

- ・ 若い世代は仕事を持っていて、町会の活動に参加できない。
- ・ アパートやマンションに住む若い世代はとくに、町会の組織に協力性がなく、町会費を払わない世帯が多い。
- ・ マンションが増え、マンション単位で町会に加入する例が多く、温度差が大きい。
- ・ 町会の良さを知らない人が多いのではないか。お葬式のお手伝いなどとても助かっている。
- ・ マンションの管理会社が入居時に町会についてレクチャーしてもらえたらいい。
- ・ 若い世代の考えを町会の活動にどう組み合わせられるかがポイントだ。
- ・ 若い世代も町会に関心を持っているが、「最初の一步」でつまずくと上手くいかないことが多いようだ。

●コミュニティ力向上のための考え方

【活動についての提言】

- ・ 児童合唱団の活動をしている。子どもから大人まで、コンサートというひとつのものを一緒に作り上げる体験がすばらしいと感じている。子どもと親が同じ場で育ち育てられる体験になる。
- ・ コミュニティ力の向上のためには、地域でなにかひとつのものを作り上げる経験を持つといいのではないか。たとえば、隅田川岸のコンクリートの壁に絵を描く、商店街のシャッターに絵を描くなど。
- ・ 興味関心の同じ人が集まることから始まるコミュニティがあってもいい。たとえば、野良猫を地域で育てるネットワークをつくるなど。

【公園管理など簡単なことを地域でやらせてほしい】

- ・ 公園の花壇の管理など簡単なことであれば、土いじりが好きな人などに管理をまかせたらどうか。地域が管理することで公園がより身近になるだろう。

【地域の活動に参加できない人がいる】

- ・ 福祉サービスを受けている人の中には、経済的にひっ迫していることから精神面に余裕がなくなっている人もおり、彼らは地域の活動に参加することが難しいだろう。

②懇談会の進め方について

【いろいろなテーマについて話し合いたい】

- ・ 各回でテーマを決めて皆で協議したい。世代別や立場別などのタテ割りはよくない。

【区政改革のテーマの明確化】

- ・ 「コミュニティ」といってもとても範囲が広がってしまう。生活に身近な問題から区政に関する問題まである。どちらを議論すべきなのか、区が設定すべき。
- ・ 区が区政改革のために何を聞きたいのか、はっきり示してほしい。
- ・ 議論の前提として、テーマごとに、区が現在行っている施策とそこでの課題について示してほしい。

③懇談会のねらい等について

【提言に対して】

- ・ いままでも提言を出したが、なにも回答がない。今回はそうならないようにしてほしい。

<第3グループ>

①荒川区の地域コミュニティの現状や課題について

●防犯

- ・ おかしな行動をする人がいたら、声をかける。

●子育て

【育児支援】

- ・ 若い母親から育児支援の要望が強い。
- ・ 子育てしている親が、サロンのような場がないため、助けが必要なときにも引きこもっている。
- ・ 元気高齢者と若い母親との交流の出来る場があれば、支援がしやすい。
- ・ ふれあい館など、若いお母さんの利用が少ない。遠いからではないか。

●子どもの交流

【地域のつながり】

- ・ 子どもを通して親同士が知り合い、地域のつながりができた。
- ・ 子どもを通して年代の違う人たちとの関わりが持てた。
- ・ 町会で成人式のお祝いなどを行うとき、地域のつながりが薄れ、どこに対象者がいるのか分からず、声もかけられない。
- ・ 以前は、子どものいる家庭に積極的に行事などのときに声をかけたが、個人情報保護の関係で、子どもの情報が得られない。
- ・ 学校が自由選択制になったため、地域で子どもを介しての親のつながりが弱くなった。

【子ども会】南千住

- ・ 南千住にはたくさん子ども会があるが、町会より少なく減っている。
- ・ 区内各地に地域で子ども会をつくろう。

【子どもと大人が気楽に話せる場】日暮里

- ・ 地域で子どもや中・高校生に気楽に声かけられる雰囲気作りができないか。
- ・ 駅前に集会施設を設置して、高齢者と子どもが交流できる場が欲しい。

●学校と地域の交流

【地域にある学校とのかかわり】日暮里

- ・ 日暮里駅周辺には専門学校などがあり、生徒と地域との関わりが持てると地域にも活気が出る。昔はもう少し関わりがあった。
- ・ 自由選択制になってから、地域との関わりが少なくなった。親のつながりが薄くなった気がする。
- ・ 小学校は地域に通学するケースが多いが、中学校では途切れる。
- ・ 学校ボランティアでも地域との協力が弱くなった。
- ・ 学校の行事に参加する親が少なくなった。
- ・ 小学校でふれあい給食をやっているが、参加しにくい。

●町会

【町会内の若者の減少と高齢化】尾久

- ・ 盆踊りなどの準備をする人がいない。しかし、当日、盆踊りに参加する人は若い人も含め冷めている。
- ・ 祭礼の実行が困難になっている。
- ・ 町会の高齢化は全区的なものだ。

【役員のみ手】

- ・ 働く世代は役員になれず、役員のみ手がいない。
- ・ 会員は減っていないが、役員のみ手がいない。
- ・ 60歳代でも働く意欲が強く、結果、それ以上の高齢の人が役員をやることになる。

【役員のみ交代】

- ・ 高齢者が長く役員でいるため、その下の若い世代が役員になりにくい。
- ・ 少し前までは、役員でも世代の違う者がいて交流があった。

【入会のみきっかけ】

- ・ マンション入居だが、子どもが盆踊りなどで世話になるので町会に入会した。
- ・ 今は、地域で子どものつながりが薄く、町会への関心も薄くなった。

【新住民のみ参加】

- ・ 賃貸住宅の住民、コミュニティへの関わりが少ない。
- ・ 共同住宅では住んでいる人同士でも交流が少ない。
- ・ 「町会に入ってくれない」と言うが、町会からの直接的な呼びかけがない。
- ・ 大家さんへの呼びかけが必要。

【老人会】

- ・ 町会が小規模なため、老人会が成立しない。
- ・ 町会に老人会がないため、老人は他の地域の人と交流している。

●ゴミ出し

【ゴミ出しのみ方法】

- ・ ゴミ出しのルールを広報紙で配布しているが、新聞を取っていない家庭も多く、伝達されない。

●環境

【身近な環境のみ取り組み】

- ・ 街路樹のサツキなどの植え込みを地域で掃除するが、ゴミの山になっている。地域で管理しやすく楽しい花壇などにできないか。
- ・ 街並みの環境づくりは区主導でなく、街の住民たちで作ることに取り組みたい。

●地域施設

- ・ 南千住にスポーツセンターができてよくなったと思うが、地域の人あまり利用していない。

②懇談会のみ進め方について

- ・ 次回ばらばらにならずに、もう少し、このグループで話し合ったほうがよいだろう。